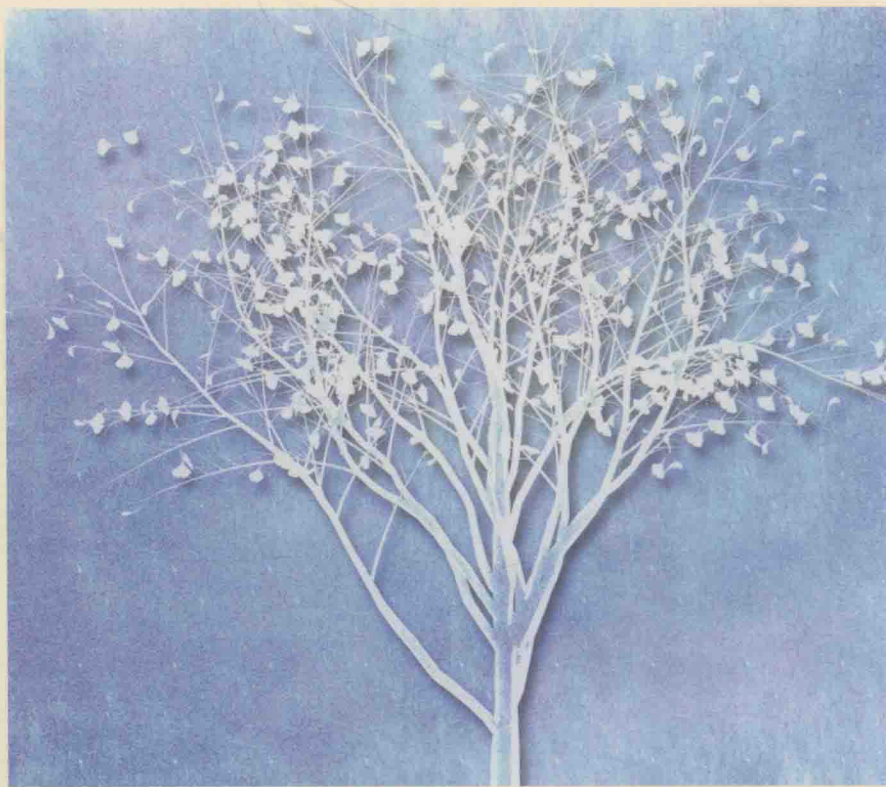


日语拟声拟态词基础研究

日本語オノマトペに関する基礎研究

曹金波 著

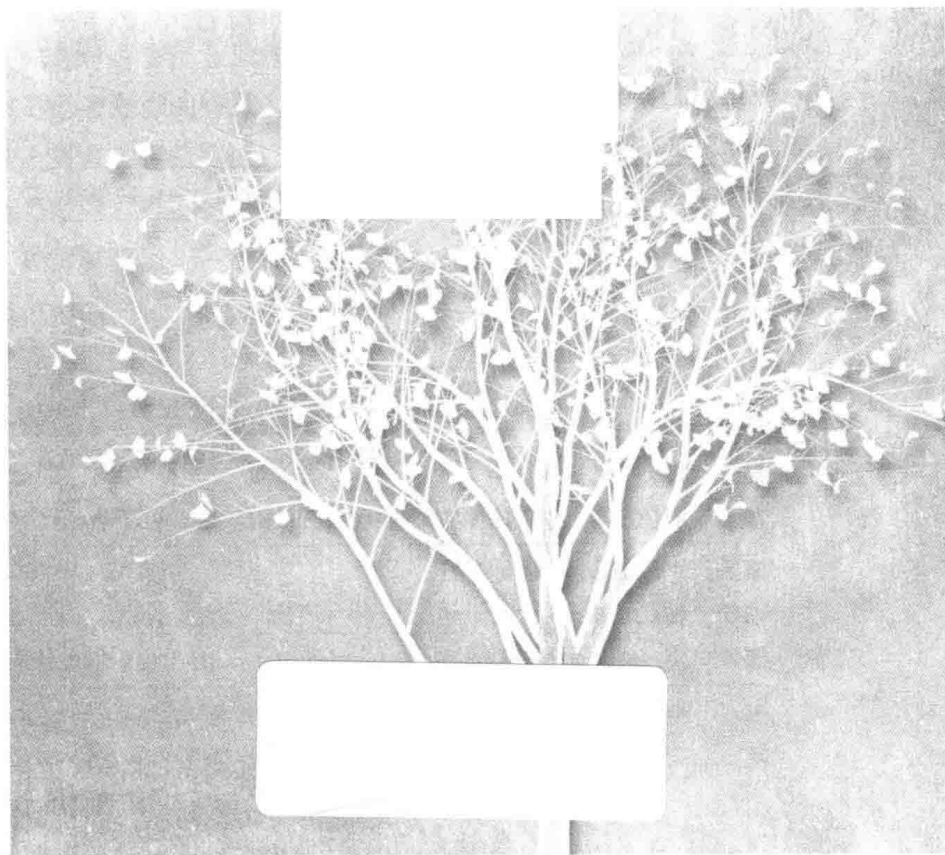


新华出版社

日语拟声拟态词基础研究

日本語オノマトペに関する基礎研究

曹金波 著



新 华 出 版 社

图书在版编目 (CIP) 数据

日语拟声拟态词基础研究 / 曹金波著. —北京: 新华出版社, 2018. 4

ISBN 978-7-5166-4025-8

I. ①日… II. ①曹… III. ①日语—象声词—研究 IV. ①H364.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2018) 第 074287 号

日语拟声拟态词基础研究

作 者: 曹金波

责任编辑: 张 谦

封面设计: 中联华文

出版发行: 新华出版社

地 址: 北京石景山区京原路 8 号 邮 编: 100040

网 址: <http://www.xinhupub.com>

经 销: 新华书店

购书热线: 010-63077122

中国新闻书店购书热线: 010-63072012

照 排: 中联学林

印 刷: 三河市华东印刷有限公司

成品尺寸: 170mm × 240mm

印 张: 19.5

字 数: 310 千字

版 次: 2018 年 5 月第一版

印 次: 2018 年 5 月第一次印刷

书 号: ISBN 978-7-5166-4025-8

定 价: 68.00 元

图书如有印装问题, 请与印刷厂联系调换: 010-89587322

2016年度大连外国语大学校级专著出版资助基金项目

目 录

CONTENTS

第1章 序 章	1
1.1 研究の動機と目的	1
1.2 研究課題	8
1.3 理論と方法	11
1.4 本研究の構成	14
第2章 言語記号としてのオノマトペ	17
2.1 はじめに	17
2.2 多言語間における音形と意味の関係	18
2.3 オノマトペの音象徴的特徴	21
2.3.1 子音と母音の意味関係	21
2.3.2 母音の意味特徴	23
2.3.3 子音の意味特徴	24
2.4 まとめ	29
第3章 オノマトペの語彙に関する考察	30
3.1 はじめに	30
3.2 オノマトペの語彙	31
3.2.1 概念規定	31
3.2.2 知覚に基づく分類	33
3.2.3 形態的特徴	37
3.2.4 教育におけるオノマトペ語彙の選定	39
3.3 オノマトペの語数および主要パターンに関する調査	43
3.3.1 オノマトペの語数に関する調査	44
3.3.2 オノマトペの主要パターンに関する調査	44

3.4	オノマトペの語彙に関する調査	46
3.4.1	「現代雑誌」に対する調査	46
3.4.2	「BTSJ」に対する調査	52
3.4.3	「旧 JLPT」に対する調査	56
3.4.4	日本で使用されている教科書に対する調査	58
3.4.5	中国で使用されている教科書の調査	61
3.4.6	調査の結果と考察	75
3.5	オノマトペの選定	95
3.5.1	本稿におけるオノマトペの選定基準	96
3.5.2	選定の結果	98
3.6	まとめ	101
第4章	オノマトペのコロケーションに関する考察	103
4.1	はじめに	103
4.2	オノマトペの構文的特徴	105
4.2.1	文法一品詞性と共起関係	105
4.2.2	本稿で扱うコロケーション	119
4.3	従来のオノマトペのコロケーションに関する扱い方	124
4.3.1	辞書におけるオノマトペのコロケーション	125
4.3.2	文法研究におけるオノマトペのコロケーション	129
4.4	オノマトペのコロケーションに関する調査	132
4.4.1	調査の方法	132
4.4.2	用例の抽出	133
4.4.3	コロケーションの抽出の結果と考察	139
4.4.4	コロケーションのリストアップ	151
4.5	まとめ	175
第5章	オノマトペの意味に関する考察	176
5.1	はじめに	176
5.2	オノマトペの意味的特徴	177
5.2.1	同一語基からの派生語とその意味	177

5.2.2	オノマトペの多義語と類義語	180
5.2.3	辞書における多義語に関する配列方針と配列法	182
5.3	日本語母語話者を対象としたオノマトペの意味に関する調査	183
5.3.1	辞書におけるオノマトペの意味記述の調査	183
5.3.2	母語話者を対象としたアンケート調査	185
5.4	基本的な意味と高頻度使用意味	199
5.4.1	基本的な意味	200
5.4.2	高頻度使用意味	202
5.4.3	常用的な意味の抽出	206
5.5	まとめ	228
第6章	オノマトペのレベル分けに関する考察	229
6.1	はじめに	229
6.2	学習時間によるレベル分け	230
6.3	旧 JLPTの認定基準によるレベル分けの判定	230
6.4	日本語教育で教えるオノマトペのレベル分け	231
6.4.1	従来のオノマトペのレベル分け	231
6.4.2	本稿におけるオノマトペのレベル分けに用いる基準	232
6.4.3	レベル分けの結果	250
6.5	まとめ	252
第7章	終 章	254
7.1	本研究のまとめ	254
7.2	今後の課題	259
7.2.1	教育上の問題点	259
7.2.2	今後の研究の位置づけ	262
7.2.3	本研究の応用価値	263
資 料		265
参考文献		285
あとがき		299

第1章

序 章

1.1 研究の動機と目的

日本語は中国語よりオノマトペをはるかに豊富に持つ言語である。日本語のオノマトペは中国語の「象声詞」に当たるが、「象声詞」と異なり、物の音や声を真似ただけでなく、繊細な心情や感覚、物事の様態や動きをいきいきと描写することができる。いわば、日本語のオノマトペは語呂がよくて表現力が豊かで臨場感に溢れる言葉である。多くのオノマトペは日常会話やコマーシャルなどの話し言葉に限らず、俳句や川柳、詩歌、小説などの書き言葉においても頻繁に使用されている。例えば、「ワンワン^①が鳴いてる」という幼稚な子供用語から「ホロホロと山吹散るか滝の音^②(『笈の小文』)」のような俳句にまで愛用されている。しかし、この日本人の日常生活に根付いた語群は中国人日本語学習者(以下、学習者)にとって、学習・習得の難関となっている。その難しさについてこれまでも多くの先行研究で指摘されてきた。例えば、天沼(1974:5)はオノマトペ^③が学習者にとって必ずしも分かりやすい言葉でも自由に使える言葉でもないと述べており、徐・譙・呉・施(2010:1)は「日本語学習と日本語教

① 本研究で扱うオノマトペは断りがない限り、すべてカタカナで表記する。

② 読みは「ホロホロとやまぶさちるかたきのおと」、季語は「山吹」(春)、詠年は貞享5年(1688)、松尾芭蕉45歳の時、奈良県吉野川の上流にある西河の滝で休み詠んだ句。出典は笈の小文、句意は西河の滝が岩間に激して轟々と鳴りわたり、岸边をいろどる黄金色の山吹の花が、風も持たずにホロホロと散る。

③ 本研究では擬音(擬声)語・擬態語をオノマトペで統一し、擬音(擬声)語あるいは擬態語の一方の場合はそのままにする。

育の経験が豊富な人なら分かるように、日本語の擬音語と擬態語は決して無視できない難点の1つである」と指摘している。

では、学習者にとってオノマトペの何が難しいのか、筆者はそれを検討するために、日本語教育という視点からオノマトペの学習に現れた問題を提起し、オノマトペの学習・習得を妨げる原因を探り、オノマトペの学習に関わる主要課題を見出す。

普段の高級日本語とリスニングの授業から発見した問題点からまとめると以下ようになる。まず、母語話者ならよく使っているオノマトペでも学習歴2年以上の学習者は使用できる語が少ないのである。その例を示すと以下のとおりである。

(1)

a. 「電灯が点滅している状態」を翻訳させると、「電灯が付いたり消えたりする」「電灯が壊れている」「電灯が光っている」と出てきたが、「チカチカする」が出てこなかった。

b. 「アリババで一氣にたくさんの海苔を買い求めた」に対して、文中の「たくさん」を「AッBリ」型のオノマトペに置き換えてもらおうと、母語話者なら「ドッサリ」と思い当たるが、学習者にはそれができなかった。

c. 「電車が動き出す時の音を想像しながらその言葉を書いてみてください」というタスクに対して、「ゴトリ」が書けず、「イメージできるが、言葉で表現できない」という回答のみである。

d. 筆者が勤務している大学の3年生用のリスニングという教科書に「樽林さんがいつもポツンと座ってらっしゃって」という文がある。クラス全員に「ポツンと座る」を演じさせると、みな「ボーッと座る」という真似をしてくれた。つまり、「ポツン」という言葉を知らないため、意味を形態上似ている「ボーッ」に当てたのである。

e. NHKテレビで放送された「クイズ 日本人の顔」というトーク番組に作家の渡辺淳一がゲストとして出演したことがある。彼は男性主人公をめめしく描いた理由を説明するために手術を受ける時の男女の出血による反応を例に取り、「体の三分の一の血が出たら男性はキチッと死ぬ。女性は必ず蘇る」と話した。その「キチッ」を知っているか否か学習者に確認したところ、みな「キチン」は知っているが、「キチッ」は知らなかった。

上記の(1a)では「チカチカ」、(1b)では「ドッサリ」、(1c)では「ゴトリ」、(1d)では「ポツン」、(1e)では「キチッ」を、ヒントを与えて質問したが、結果としてはオノマトペそのものの存在を知らなかったと判断するほかにない。

これに続いて、問題点の2つ目はオノマトペを含む文の意味が理解できていても、オノマトペの意味をうまく把握できないことである。マルチメディアに恵まれている学習者はオノマトペに触れることが多いにもかかわらず、その意味を十分に理解できず文脈によって推測することが多い。しかし、推測のまましていると、オノマトペの意味を探ろうとせず、解釈も使用もうまくなならない。例で示すと以下のようなになる。

(2)

a. 男子Aと男子Bは、男子Bの好きな女子Cについて話し合う。男子Bの話によれば、女子Cがタイプで自分に好意を示したこともあるが、お互いに気があっても誘ったり誘われたりすることがなかった。そんな男子Bに男子Aが「ガンガン誘えば?」と勧めた。しかし、男子Bはウンと返事しなかった。すると、男子Aが「お前、男やろう。ガンガンナンパしてください」とふるい立たせた。男子Aが話した「ガンガン誘えば?」と「ガンガンなんぱしてください」という文の意味は学習者には分かったように見えたため、中国語でシミュレーションさせた。すると、文の意味が成り立ったのだが、「ガンガン」が意味として十分に伝達されていなかったことに気づいたのである。そこで、「ガンガン誘う」「ガンガンなんぱする」「ガンガン行く」の「ガンガン」の言い換え練習と「どのように誘うか(なんぱするか、行くか)」という意味解釈をさせると、学習者が戸惑った。

b. 「ちふれ化粧水」のキャッチコピーである「モッチリ! べたつかない」という言葉を学習者に紹介したことがある。最初は「モッチリ」も「べたつく」もわからなかったようで、「モチモチ」と「ベタベタ」を用いてTPRで説明すると、大体理解できるようになったと思ったが、「何がどうなっているのか」と尋ねると、無回答のままであった。

c. 日本では『ミッキー安川のズバリ勝負』は28年間続いた人気ラジオ番組である。この番組は台本のない生放送で、安川が毎週日本の政治や経済のリーダーを呼んで日本の未来を語る。各政党の議員をはじめ、評論家、ジャーナリストなど多彩なゲストが出演する。番組のタイトルの「ズバリ」をどのように理

解するのかを質問すると、反応がなかった。

d. 大阪ではICカードのことをPITAPAと呼んでいる。改札口には「ピタッとふれてください。」というメッセージが書いてある。それを学習者に説明してそのまねをさせると、学習者の一部がICカードからヒントを得て「カードでタッチする」としたが、どこにどのように触ればいいのか分からなかったようで、さらに次のように説明を追加した。自動改札機にカードをタッチするマークがある。ピタッと触れないと、カードが読み取れない。そのときは「ピピピ」と音が鳴り、ディスプレイに「もう一度ふれてください」と表示され、カード読み取り部が赤く光る。このように説明してから改めて「カードをどこにどのようにふれるか」と真似をさせると、みな正しくその動作ができた。しかし、自分の行為を言葉で表現できなかった。

e. 「ガツンと、みかん(棒)」というアイスキャンディーのキャッチコピーを理解させるために、URL^①をアップしてその動画を見させた。「何をどうするか」と質問すると返事がなかった。

(2a)は「男子Bが好きな女子Cを勢いよく誘う」、(2b)は「肌は弾力があって柔らかくて粘りつくような感じ」、(2c)は「旬の話題へ単刀直入に切り込み、物事の核心を正確に指摘する」、(2d)は「急に完全にしっかりとカードを電磁気のマークのところに触れる」、(2e)は「みかんの果肉がキャンディーの中にタップリ入っているため、歯とぶつかる時の音およびその様子」を表わしている。(2a)～(2e)に対して、学習者は対応できないのが明らかである。つまり、オノマトペそのものの意味をきちんと把握できていないからである。

さらに、問題点として挙げられるのは以下に示すように、オノマトペに後続する共起語が省略される場合、学習者はその共起語に思い当たらないのも現状である。

(3)

a. 「あすのポイント 日差しキラキラ 気温グングン」という天気予報に対して、「キラキラ」「グングン」と共起する語として何が挙げられるかと尋ねてみ

① YouTube(https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=twVKvtIBVRI)
(2014年5月30日現在の検索)

ると、学習者の一部が「キラキラ光る」、「グングン上がる」と当てたが、それ以外の同様な単語を想起できなかった。

b. 「脂肪に一喝！糖分にパンチ！！燃焼運動を強力サポートする酵素ダイエットとは？昔、ポッチャリ61kg 今、ホッソリ55kg」において、文脈から「太る」「痩せる」と推測できたようだが、「ポッチャリ」「ホッソリ」が何と結び付くかと聞いたところ、「太る」と「痩せる」にとどまっている。

c. 平成24年度の「国語に関する世論調査」には、オノマトペに関する5つの言い方の認知と使用についての調査がある。その中では「聞いたことがある」と回答した日本人の比率の76%を占める「キンキンに冷えたビール」は筆者にとって初耳なのである。そこで、「学習者たちは知っているのだろうか」と筆者はそれを取り出して、「ビールがキンキンに()」という穴埋めの形にして学習者に完成させると、みな筆者と同じ状況で回答ができなかった。

d. テレビの番組で激辛の刀しょう麺を紹介された時、「麺がモチモチ、口の中でプリプリ！」という話が出た。また、新鮮なイクラを食べたキャスターが「なんか、プリプリ！」と話した。この2つの話の中の「モチモチ」と「プリプリ」が何と結び付くかと聞いてみたところ、反応がなかった。

(3a)は文脈から「キラキラする」や「グングン伸びる」など想起するはずだが、(3b)は「ポッチャリした/している」「ホッソリする/している」も考えられる。(3c)は「ビールがキンキンに冷えている」も「ビールがキンキンに冷やしてある」もよさそうだが、(3d)は「モチモチする」「プリプリする」などと思い当たるはずである。しかし、予想に反して、オノマトペと共に起る語が思い浮かばなかった。

以上、学習者に見られるオノマトペの難点をまとめてみると、(1a)～(1e)は学習者がオノマトペを用いられるはずのところに母語話者のようにオノマトペが使用できない。(2a)～(2e)は学習者はオノマトペが表徴する意味を理解できず、イメージも喚起できない。(3a)～(3d)は学習者は母語話者のようにオノマトペと結び付く語が想定できず、共起語が省略された場合の意味も捉えられない。

では、学習者にはなぜこのような問題点が現れているのか、この問いに関わる要素として、オノマトペ、教科書、指導法と学習法という4つの面が考えら

れる。

(4)

a. オノマトペ

オノマトペは語数が多い。その多くは自然の音響を模倣することによって作り上げられたものであるため、雨は「シトシト」、雷は「ゴロゴロ」、まるで自然界が「声」をもって語りかけてくるように母語話者には聞こえるが、学習者にはそのように感じ取れず、その発音と直結する意味も受け止められない。また、オノマトペは「視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚」という「五感」や、「痛み」、「喜怒哀楽」などの身体・心理感覚を表すものとしても欠かせない言語要素となっている。母語話者には何とはなしに自然に使用できるこれらの表現は学習者には直感で理解できず馴染めない。

b. 教科書

初級段階ではごく限られた語に限られた形(ユックリしてください)でしか提示されていないのに対し、中級、上級へ進むと様々な文体の文章が増えるにつれオノマトペも急増するきらいがあると同時に、提示された語に関する説明がどれも中国語か日本語の語釈のみにとどまっている(ガサガサ:表面が荒れているさま)。

c. 指導法

教科書に出現しているオノマトペに対する教師の対応ぶりを観察すると、オノマトペを指導する教師がかなり少ない。指導の中では、低学年(大学1、2年生)を担当する教師は文法翻訳法を用いて意味の翻訳をするのに対し、高学年(大学3、4年生)を担当する教師は文章を解読するに当たって少し触れただけで深入りをしないのが普通である。

d. 学習法

学習者自身の学習姿勢を観察すると、授業中、オノマトペに関する質問を抱えたとしてもその場で解決しない傾向がある。放課後、辞書を調べるかと質問すると、ほとんどの学生は何もせずに解決しないままにいる。

そこで、筆者は学習者が辞書を利用しない理由を究明するために、日本と中国で出版されたオノマトペの辞書を合わせて以下の8冊を対象に調査を行った。

- ①浅野鶴子(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- ②阿刀田稔子・星野和子(1993)『擬音語擬態語使い方辞典』角川書店
- ③天沼寧(1974)『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版
- ④小野正弘(2007)『日本語オノマトペ辞典』小学館
- ⑤飛田良文・浅田秀子(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版
- ⑥山口仲美(2003)『暮らしの言葉 擬音・擬態語辞典』講談社
- ⑦近野中・毛利欣・劉青然・陳岩(1996)『日語拟声词、拟态词例解词典』商務印書館
- ⑧曹金波(2008)『標準日本語擬声語・擬態語』大連理工大学出版社

調査については後述するが、上記の8冊の辞書を学習者が利用しない理由、もしくはこれらの辞書が学習ニーズを満たせない問題点は以下のようにまとめられる。

(5)

- a. 語数が多すぎて、どれがよく使われているのか明記されていないため、日本人のよく使っているオノマトペを知ることができない。
- b. オノマトペと共起する語が限られていて、典型的な共起が明記されていないため、共起関係を把握することができない。
- c. 学習者にとって意味の配列が分かりにくいいため、よく使われている意味が分からない。

この調査で分かるように、(5a)～(5c)はオノマトペ辞書に共通している問題点とも言える。オノマトペ辞書は一般的に広範で大量な語彙を網羅するのが普通で、またそれぞれ異なる問題意識と着眼点があり、それなりにオノマトペを扱う角度や方法も異なっている。よって、(4d)のような現状を見てわかるように、学習者に自律的な学習を形成させるには、辞書のみに頼っては無理のように思える。

そこで、オノマトペの学習・習得に関わる(4a)～(4c)の3要素から解決の方法を見出す必要がある。そのうち、オノマトペそのもの(4a)は学習者にとって難しく変えられるものではない。しかし一方で、学習者に使わせる教科書(4b)と教師の指導法(4c)は変えられるもので、この2要素から着手するしか

い。まず、教科書の問題点と言えば、初級・中級・上級に割り当てる語数が偏っている。この偏りを適切にしなければならない。また、取り上げられるオノマトペの語彙に対して、その記述と提示の仕方を工夫する必要がある。それから、オノマトペに対する指導に関して、指導すると指導しないという2つの現象が起きている。「指導しない」はおおむね教師自身の認識と態度によって変わるもので、有効な教授法や指導法を提供さえすれば、意味解釈だけで済ませる「指導できない」教師から学習目標に合わせて指導を行う「指導できる」教師に変身する可能性が大きい。

よって、オノマトペの学習・習得が難しいという難題を解決するために、従来の教科書と指導の代わりに、理想的な「教材・教科書」を検討する必要がある。そこで本研究は、オノマトペの学習・習得における困難を解決することを目指して、オノマトペの学習内容の構築について考察することを目的とする。

1.2 研究課題

オノマトペの学習・習得における難題は学習者にとっては「何をどう勉強すればいいか」という問題であり、教育者にとっては「何をどう教えればいいか」という問題である。本研究は教育者の立場からこの問題に取り組む。「何を」という問題を解決するためには最も重要なのは現在使用されている教科書のかわりに新しい「教材・教科書」もしくはオノマトペの学習内容を構築することである。この課題は4つの下位課題によって構成される。それぞれ、オノマトペを選定する、選定したオノマトペのプロトタイプのコロケーション^①とプロトタイプの意味またはそれに近い意味^②を抽出する、「オノマトペ+コロケ

① コーパスを用いた調査の結果に基づいてオノマトペと共起する動詞の頻度によって、また、母語話者を対象としたプロトタイプの意味の調査結果と照らし合わせて、プロトタイプのコロケーションを認定する。

② 松本(2003: 142)のプロトタイプの意味を認定する方法に基づき多義語の複数の意味のうち、母語話者の直観によって最も基本的な意味をプロトタイプの意味と認定する。本稿は日本語母語話者を対象とした基本的(典型的)な意味の調査結果からプロトタイプの意味またはそれに近い意味を判定する。

ーション+プロトタイプの意味またはそれに近い意味」によってオノマトペのレベル分けをする、という4つである。詳細は以下の(6)に示す。

(6)

a. 第1は教科書に出現するオノマトペの語数が少ないことに対して、複数の資料を照らし合わせて初級・中級・上級で教えるオノマトペを選定することである。その手順としてまず、オノマトペの主要パターンを調査する。『暮らしの言葉 擬音・擬態語辞典』(以下『暮らしの言葉』)、『分類語彙表』、『現代雑誌 200 万字言語調査語彙表』(以下「現代雑誌」)を用いて、辞書および語彙調査表におけるオノマトペの分布をパターンごとに調べ、語数と語形によって主要パターンを選ぶ。次にオノマトペとその使用頻度を調査する。選定資料は実際使用を反映する書き言葉資料「現代雑誌」と話し言葉資料「BTSJによる日本語話し言葉コーパス2011 年版」(以下「BTSJ」)、日本語教育分野での扱い方を代表するテキスト(日本と中国で出版された日本語教科書それぞれ初級・中級・上級をカバーする10 種と11 種)、日本語能力試験問題(旧)(以下「旧 JLPT」)を用いる。5 種の資料に対する調査方法として、実際使用を重視する観点から、「現代雑誌」と「BTSJ」におけるオノマトペの延べ語数(使用頻度)を、日本語教育関係資料3 種の異なり語数(出現回数)を調査する。すなわち、日本語教科書と日本語試験においては各資料において何度出現しても1として取り扱い、使用頻度を数えた「現代雑誌」と「BTSJ」の資料のほうに重みをつける形にする。また、それぞれのオノマトペがいくつの資料に出現しているかという出現資料数も調べ、単一の資料にのみ出現するというような偏りがないかという観点も取り入れる。使用頻度/出現回数と出現資料数を数値化して、その数値をもとに選定の基準に区分してオノマトペの選定を行う。

b. 第2は従来の教科書がオノマトペのみを提示しているのに対して、本稿はオノマトペをプロトタイプのなコロケーションとともに提示することを試みる。本研究は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contem-

porary Written Japanese、以下 BCCWJ)^①を利用してオノマトペの後方1語から10語ずつ設定して、用例を収集する。ピックアップした用例をチェックして、オノマトペが共起語との共起関係が成立するか否かを判断する。成立するオノマトペの共起語を取り出して、認知意味論のプロトタイプ理論に従って共起語のカテゴリーから中心メンバー、すなわちプロトタイプのコロケーションを抽出して学習内容に組み入れる。

c. 第3の課題は「常用的な意味」^②を提示することである。従来の教科書におけるオノマトペの意味は簡単な語釈あるいは意味説明にとどまっている。具体的に選定したオノマトペの中から2つ以上の意味を持つ多義オノマトペを取り出し、母語話者を対象に意味に関する調査を行う。母語話者を対象とした調査のデータにより、多義オノマトペの基本的な意味と高頻度使用意味を抽出してオノマトペのシソーラスとして学習者に提供する一方、本稿の指導内容としても利用する。

d. 第4はオノマトペのレベル分けを試みることである。初級・中級・上級学習者の学習ニーズと新 JLPT 受験の必要に応じて、初級レベルからオノマトペの語数を増やす。レベル分けは中国で使用されている教科書11種(以下「教科書」)、ヨーロッパ言語共通参照枠(以下 CEFR)^③のCan-doの6つのレベルと JF 日本語教育スタンダード2010(以下 JFS)^④のCan-doの4つのレベルを基準にオノマトペを初級・中級・上級という3つのレベルに分け、日本語能力試験(新)

① 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所によって構築された現代日本語のコーパスである(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 略称 BCCWJ)。筆者は本コーパスと使用許諾契約を締結したことにより、本コーパスに収録された約1億語の書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Webの掲示板、ブログなど多様な日本語を検索できる。このツールは「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」という目的で、国立国語研究所が、2006年8月に公開したものである。社会性と多様性を備えていると考えられる月刊雑誌70誌を調査対象とし、現代の言葉を誌面から標本として抽出し、用語・用字に関して計量的な調査・分析を行い、語彙表にしたものである。

② 日本語母語話者を対象としたオノマトペの基本的(典型的)な意味と高頻度使用意味を合わせて常用的な意味と呼ぶことにする。

③ 吉島・大橋他(訳編)(2008)を参照。

④ JF 日本語教育スタンダード(<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/news/201005.htm>)(2015年7月1日現在の検索)